

リンク D 競技力の向上

施策 1 選手の発掘・育成・強化及び指導者の養成・資質向上

(1) 現状と課題

本県では、平成22年第65回国民体育大会(以下、「ゆめ半島千葉国体」という。)及び平成17年度全国高等学校総合体育大会(以下、「千葉きらめき総体」という。)において好成績を収めることを目的として、平成14年に「千葉県競技力向上推進本部」(以下、「県推進本部」という。)を設立し、競技力向上の計画的な取組を開始しました。

これにより、競技水準は大きく引き上げられ、「千葉きらめき総体」では、過去最高の入賞者を輩出するとともに、国民体育大会においても、平成19年第62回秋田国体8位、平成20年第63回大分国体6位、平成21年第64回新潟国体6位と着実に成果を上げ、37年ぶりに開催された「ゆめ半島千葉国体」では本県史上初の天皇杯・皇后杯獲得による完全優勝を達成し、選手と地域が一体となって「日本一」を味わい、県民に大きな感動を与えました。加えて、この間に開催された北京オリンピックには、7名の本県高校出身者が出場するとともに、年代別の日本代表や競技別の世界選手権代表も数多く輩出するなど、国内外で活躍するトップアスリートの育成にも大きな成果を挙げました。

「ゆめ半島千葉国体」終了後も「県推進本部」を存続し、平成28年第71回岩手国体では、32年ぶりの男女総合5位に入賞し、女子総合は7位と8年連続入賞となっております。

【国民体育大会千葉県選手団：過去5年間の成績】

平成 年	回	開催地	男女総合成績 (天皇杯)		女子総合成績 (皇后杯)	
24	67	岐 阜	第 7 位	1444.0 点	第 7 位	722.0 点
25	68	東 京	第 7 位	1524.5 点	第 5 位	834.5 点
26	69	長 崎	第 10 位	1394.0 点	第 6 位	818.5 点
27	70	和歌山	第 7 位	1528.5 点	第 6 位	749.5 点
28	71	岩 手	第 5 位	1676.0 点	第 7 位	919.0 点

オリンピックについては、「ロンドンオリンピック」に本県ゆかりの30名の選手が出場し、また、「リオデジャネイロオリンピック」では、13競技に41名の選手が、「リオデジャネイロパラリンピック」では、9競技に18名の選手が、出場を果たしました。出場者の増加傾向が続いています。2020年東京大会では、この数のさらなる増加を目指します。

高校総体については、「煌めく青春南関東総体2014(平成26年)」において、水泳、バスケットボール、ソフトテニス、バドミントン、柔道、空手道、アーチェリー、少林寺拳法の8競技を開催しました。「2016情熱疾走中国総体(平成28年)」において、サッカーや体操競技をはじめ7つの競技で団体優勝、6つの競技で団体準優勝と「千葉きらめき総体」の成績を大きく上回ることができました。

本県で育った選手が日本、そして世界の「ひのき舞台」で活躍することは、県民に感動や勇気、希望、誇りを与え「スポーツ立県ちば」の一層の推進に大きな役割を果たします。

これまでの取組の成果をしっかりと引き継ぎ、本県の競技力の恒常的な維持・発展を目指し、選手の発掘・育成・強化及び指導者の養成・資質向上に取り組めます。



【平成22年度 ゆめ半島千葉国体完全優勝】



【千葉県選手団結団式】

(2) 目標・方向性（関連性）

個々の選手及びチームの競技力向上を推進する

- ア 国民体育大会入賞に向けた選手強化（リンク A・E）
- イ 未来のアスリートの発掘・育成・強化（リンク A・E）
- ウ 指導者の養成・確保・資質向上と適正配置（リンク A・C）
- エ 障害者競技スポーツの競技力向上（リンク B・E）

(3) 具体的な取組

ア 国民体育大会入賞に向けた選手強化

- ・ 国民体育大会派遣事業
- ・ 国体選手強化・サポート事業

国体出場選手強化のため強化練習会、強化合宿、県外遠征、招聘試合等を実施します。また、コーチを国体や強化活動に派遣します。各団体の指導者の養成・資質向上のため、県外視察や講習会参加等を促します。

イ 未来のアスリートの発掘・育成・強化

・ ちばジュニア強化事業

素質のある選手の早期発見と年齢・競技種目等に応じた計画的・継続的指導を図るためスポーツ教室、地区別練習会、中央練習会、強化合宿等を実施します。なお、事業の推進に当たっては、児童生徒の心身の発育・発達段階や健康状態を考慮し、障害防止や安全等に十分注意するとともに、学習活動に支障のないよう配慮します。

・ 新たな強化拠点づくりの推進

・ 強化型別支援の展開

・ 優秀な選手・指導者の指定

ちばジュニア強化選手や指導者を指定して、競技力向上に対する意欲の向上を図ります。

ウ 指導者の養成・確保・資質向上と適正配置

・ 各競技団体や関係機関と協力しながら、指導者の養成・確保が促進されるよう組織的な取組に協力します。また、指導者の資質向上のため研修等を支援します。

・ 指導者の適材適所の配置について関係機関に協力を求め促進します。特に指導力のある教員の配置については、長期的な視野に立って適切に行われるよう要請します。また、学校運動部活動等における外部指導者の導入を積極的に推進し、多角的に運動部活動を応援します。

エ 障害者競技スポーツの競技力向上

本県ゆかりのパラリンピック出場選手を一人でも多く輩出するために、東京オリンピック・パラリンピックアスリート強化・支援事業を継続しながらパラリンピック競技の競技力向上を支援します。



【ソフトテニスジュニア強化練習会（左）・中学校教諭対象の実技研修（右）】

施策2 競技力向上のための環境整備

(1) 現状と課題

選手の育成・強化の現場では試行錯誤を繰り返し、選手が力を発揮できる環境を地道に整備しています。本県では、競技団体の要望や課題等を踏まえながら、競技用具等の整備、県を代表する企業チーム等への支援、強化拠点施設の確保、強化活動への参加条件の整備などに計画的に取り組んでいます。

今後も、関係機関の理解や協力を得ながら、環境整備に努める必要があります。

○ 競技用具の整備

選手強化に必要な用具等を整備し、練習条件を整えることは競技力の向上に直接結びつきます。特に競技ルールの変更や、セーリング艇・カヌー艇等、高額で特殊な競技用具については、財政的支援による計画的な整備が求められています。

○ 企業・大学・総合型クラブ等への支援

有力な選手・監督の所属先や、スポーツ活動を推進する企業・大学・総合型クラブ等と連携し、その活動を側面から支援するとともに、国民体育大会への理解を求め、協力体制を構築することは、一貫した選手強化を推進する上でも重要な課題です。

○ 強化拠点施設の確保

強化練習を行う際には、専門的な練習が可能な施設・設備が長期的に確保されていることに加え、選手が集まりやすい場所等、地理的な条件も必要です。それらを踏まえ、各学校の施設や公共スポーツ施設を優先的に利用できる方策を推進します。一方で、県民のスポーツニーズの高まりにより、選手強化と愛好者による大会等とのバランスのとれた利用も求められています。

○ 参加条件の整備

強化選手、特にジュニア選手は、小学校高学年から高校生まで幅広い年代であり、学校、保護者の理解・協力なくして順調な活動は望めません。そのため、児童生徒が強化活動へ参加する場合の理解促進が必要です。

(2) 目標・方向性（関連性）

計画的に競技用具の整備を推進する

トップチームを支援し、競技団体の強化環境を整える

ア 強化拠点施設の確保と競技用具等の計画的な整備の推進（リンク C）

イ トップチーム支援及び企業・大学・総合型クラブ等との連携（リンク E）

ウ 参加条件の整備（リンク A）

(3) 具体的な取組

ア 強化拠点施設の確保と競技用具等の計画的な整備の推進

- ・ 公共スポーツ施設の有効活用

ジュニア選手や県選抜チーム・選手が効果的・効率的に練習することができるよう、公共スポーツ施設等の優先的使用について理解を求めるとともに協力を依頼します。

- ・ 競技用具等整備事業

競技会等運営のための施設・用具の整備を配慮しながら、競技力向上のための施設・用具の整備を段階的・計画的に行います。

イ トップチーム支援及び企業・大学・総合型クラブ等との連携

- ・ トップチーム支援事業

本県において各競技の主軸となる競技力を有する企業・大学・総合型クラブ等のチームをトップチーム団体に指定し、その主体的な強化活動の支援を行います。

ウ 参加条件の整備

- ・ 選手・指導者の参加条件の整備

競技力向上事業の推進に当たっては、児童・生徒や教員の学校教育活動に支障をきたさぬよう十分配慮しながら、可能な限り所属長や保護者に理解を求められるよう努めます。



【競技用具等整備事業

カヌー競技スラローム (左)

射撃競技ライフル射撃 (右)】

施策3 スポーツ医・科学の積極的な活用

(1) 現状と課題

本県は、平成11年3月、県総合スポーツセンターにスポーツ医・科学の拠点である「スポーツ科学センター」を設置しました。また、県体育協会スポーツ医事・科学研究委員会と協力し、各種講習会や講演会を開催するなど、ハード、ソフト両面において充実した体制が整備されています。

スポーツ医・科学に関する理解や科学的なトレーニングの導入を促進するため、スポーツ科学センターの機能を積極的に活用するとともに県体育協会スポーツ医事・科学研究委員会の協力により、選手・指導者を対象とした「スポーツ科学講座」の実施や、国民体育大会へスポーツドクター・アスレティックトレーナーを派遣するなど、強化現場を直接サポートする体制を充実させています。

また、選手の体力測定や栄養状況調査の実施、効果的・効率的な練習やけがの予防のため、スポーツ科学センターにおける選手の体力・能力等に関するデータの集積と、そのデータに基づく練習プログラムの作成等を計画的に進め、選手、指導者、保護者等に効果的なトレーニング方法、けがの予防方策、食生活の在り方などについて指導・助言し、競技力の向上に貢献しています。

今後は、これまでの取組を踏襲することに加え、アスレティックトレーナー等のサポートスタッフの育成と確保を進め、多様化する現場のニーズに対応することや、年代別や新測定項目、複数回測定の導入等スポーツ科学センター機能の充実により、競技の特性や競技者の実情に応じた競技力向上支援システムの確立に向けた取組を強化していく必要があります。

(2) 目標・方向性（関連性）

効果的な選手強化のためにスポーツ医・科学の活用を推進する

ア マルチコンディショニングサポート事業による多面的な支援の充実（リンク E）

(3) 具体的な取組

ア マルチコンディショニングサポート事業による多面的な支援の充実

- ・ 基礎能力測定・障害相談・栄養相談等の実施

スポーツドクター・アスレティックトレーナー等による「測定データ活用会議」を開催し、指導者等に測定結果をフィードバックするとともに、指導者等が効果的なトレーニング方法、けがの予防方策等に活用できるような知識や技術の充実を図ります。また、選手の栄養状況調査などを計画的に進め、選手、指導者、保護者等に食生活の在り方等についてサポートする体制を確立します。

また、スポーツ科学センターの機能の充実を図り、より専門的な科学的データの蓄積を図ります。

- ・ スポーツドクター・アスレティックトレーナー等の派遣

県体育協会スポーツ医事・科学研究委員会から推薦されたスポーツドクター・アスレティックトレーナー等を国民体育大会や強化活動等に派遣し、選手の健

健康管理、障害予防、スポーツ外傷の応急措置、リハビリテーション等に対応します。また、競技団体が独自にコンディションアップできるように支援します。

- ・ **メディカルチェックの実施**

国体選手の健康管理のため、メディカルチェック（健康診断票による問診・MRI 検査等）を実施します。

- ・ **ニュートリションマネージャー^{※20}、メンタルトレーナー、スポーツスカラー^{※21}、スポーツデンティスト^{※22}等の活用**



【体力測定】



【強化担当者会議】

国体選手強化・サポート事業における

コーチ・スポーツドクター・アスレティックトレーナーの定義

【コーチ】・競技別実施細目による監督と同様の資格要件を満たし、コーチとして試合に臨む資格がある者。 ※「公認スポーツ指導者資格」有資格者が望ましい。

・上記以外で大会期間中に監督と一体になって指導に当たる者。

【スポーツドクター】・公益財団法人日本体育協会公認スポーツドクター等の資格を保有する者。

【アスレティックトレーナー】スポーツドクター及びコーチの緊密な協力のもとに、スポーツ選手の健康、管理、障害予防、スポーツ外傷、障害の応急処置、リハビリテーション及び体力トレーニング等を担当するに値するスポーツ医学に関する資格または知識・技能を有する者。

※20 【ニュートリションマネージャー】：栄養士

※21 【スポーツスカラー】：スポーツ研究者

※22 【スポーツデンティスト】：スポーツ歯科医

施策4 組織・調査等の充実

(1) 現状と課題

○ 組織の充実

本県では、「県推進本部」を競技力向上推進の中核的組織として、本部会議を組織し、各種施策を展開しています。本部長は、県副知事、委員には県議会議員・学識経験者等、県内各界から幅広い人材に御参加いただいています。

本部会議には専門部会が置かれ、予算、決算、総合計画、選手の育成・強化、指導者の養成・確保等について審議が付託されています。

本県のスポーツ推進を支えているのは県体育協会、県障がい者スポーツ協会、各競技団体、学校体育連盟等、多くの関係団体の情熱と着実な取組です。県推進本部では、これらの団体と十分な連携を図りながら事業を展開しています。

各競技団体においては、競技の特性や実情に応じ、中長期的な展望のもと、明確な目標の設定、目標達成の具体的な計画、成果の分析・評価等、組織的な取組を推進する必要があります。加えて円滑な強化活動には会計処理等の事務能力の向上も欠かせません。そこで、強化責任者、事務担当者等が一体となった強化組織を整備・充実させコンプライアンスの遵守、ガバナンスの向上に努めます。

また、障害者競技スポーツの競技力向上については、組織体制の整備と障害者競技スポーツ選手の掘り起こしを一層推進する必要があります。

○ 調査等の充実

本県の競技力向上に関する施策の総合的・一体的・効果的な推進を図るため、国や他県の強化方策等の研究を進めます。また、各種大会、強化練習等の視察、競技団体担当者とのヒアリング等、優秀選手・指導者の発掘のための調査活動を行うことで、選手選考過程や競技力の現状を把握し、競技団体への的確な指導・助言につなげます。

各種の広報活動を通じて、県民のスポーツへの関心や理解を一層深め、スポーツがもたらす喜びや楽しみを県民一人ひとりが味わえるような環境づくりを促進します。また、障害者スポーツに関する認知度を高めるための広報の充実にも努め、スポーツを通じて共生社会の実現に資する取組を行います。

(2) 目標・方向性（関連性）

国体選手選考・障害者競技スポーツの組織の育成・強化活動調査事業や競技力向上対策を行う

ア 各種会議の充実

イ 各種表彰と広報活動の充実（リンク C）



【県競技力向上推進本部長表彰及び県選手団解団式】

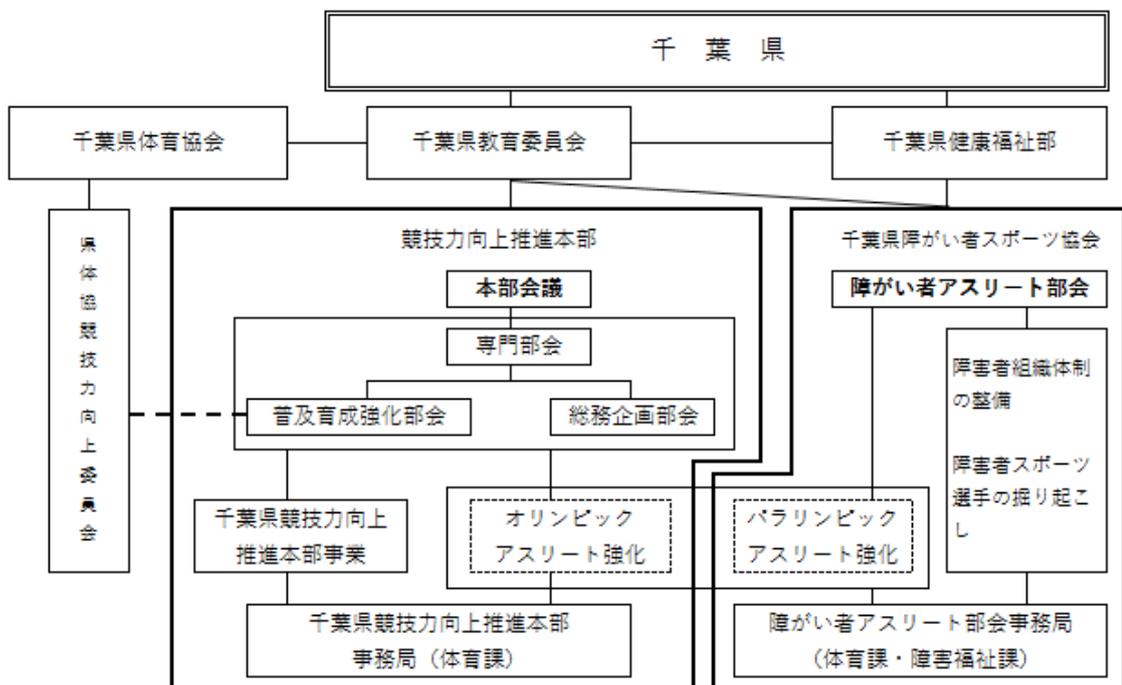
(3) 具体的な取組

ア 各種会議の充実

- 千葉県競技力向上推進本部会議等の開催
 計画的な強化施策を推進するために、本部会議、総務企画部会、普及育成強化部会、アスリート部会等を開催し、県全体で競技力向上施策の着実な具現化に努めます。また、事業の効果や進捗状況を絶えず把握し、施策に反映させます。
- 研修による組織力の向上
 強化・会計・派遣、ジュニア等の各担当者会議を開催し、研修を充実させ、円滑かつ効率的・効果的な強化活動の展開に努めます。また組織のコンプライアンスの遵守、ガバナンスの向上を推進します。
- 国体選手選考・強化活動調査事業
 国体選手選考会議を開催し、本県国体選手の選考を行います。また、各競技団体へのヒアリング等を通じて強化活動調査を行い、競技力向上委員会、戦力分析会議において、本県競技力の現状把握、他県の戦力分析等の調査・研究を行い本県の対策を検討します。

イ 各種表彰と広報活動の充実

- 優秀選手及び優秀監督の表彰
- 広報活動の充実
 県教育委員会のホームページ等において、競技スポーツ等の様子を伝え県民の興味関心を高めるとともに、障害者スポーツの様子も掲載し障害者スポーツの認知度の向上を図ります。
 さらに、関係市町村へ情報提供をし、広報誌等の掲載に協力します。



【県競技力強化支援組織図】

施策5 競技会開催等の充実

(1) 現状と課題

○ 競技会開催の充実

少子高齢化の状況は本県においても深刻な問題です。若者人口も減少しています。このことは、競技スポーツを行う中心層の人口が減少することにつながります。この現状の中で、競技力の水準を維持していくことは、競争の難易度が低下することから難しくなっています。競技スポーツの水準を維持するためには、競技人口の確保、つまり幅広い年齢層への競技スポーツの普及により、参加者を増加させなければなりません。

現在、千葉県の成人の週1回スポーツ実施率は46.5%（平成28年度）と低く、競技スポーツ人口の開拓潜在力はまだまだ高いと考えます。競技人口増加に繋げることを意識した競技会等の開催を工夫します。

競技人口増加を狙った取組では、イベント的要素を含みながら親子三代等での参加を促し、参加した子どもたちの中からその競技に興味を持ち、選手として大成する者も出てくると考えます。この意味においては、競技会開催等の充実は、タレント発掘にも繋がると考えます。

さらに、競技会開催と地域との連携を図れば、家族ぐるみの参加により、スポーツを「する」「みる」「ささえる」人口の増加に繋がると考えます。「スポーツ立県ちば」の一層の推進に貢献します。

○ 国際スポーツ交流の充実

グローバル社会の進展により、諸外国との相互理解や友好親善の必要性はますます拡大してきています。また、オリンピック・パラリンピックをはじめとするワールドスポーツに対する国民の関心度の高さ、国際交流の教育的価値を考えると、国際スポーツ交流の充実は、本県スポーツの振興施策に必要不可欠なものと考えられます。交流する国や地域との相互の競技力向上を視野に入れながら計画・実施に当たっていきます。

現在行われている国際スポーツ交流事業の充実を図り、2020年東京大会を意識しながら関係機関と連携し取り組んでいきます。

(2) 目標・方向性（関連性）

各競技会の充実を図り、競技人口の拡大を図る

国際スポーツ交流を充実させる

ア 競技スポーツへの参加（する、みる、ささえる）の裾野拡大（リンク F）

イ 国際スポーツ交流事業の充実（リンク E）

(3) 具体的な取組

ア 競技スポーツへの参加（する、みる、ささえる）の裾野拡大

- ・ 千葉県民体育大会の充実開催と各競技会でサブイベントの実施
- ・ 国民体育大会千葉県大会（国体予選）開催の充実
- ・ 平成31年第74回国民体育大会関東ブロック大会の開催
- ・ 試合（大会）出場機会の増加を推進
各競技団体と登録の方法、大会参加条件等について検討する。

イ 国際的スポーツ交流及び競技会の充実

- ・ ドイツ・デュッセルドルフ市とのスポーツ交流の継続及びその他国際交流事業の実施
- ・ 2018年第16回世界女子ソフトボール選手権大会（平成30年）への協力（☆新たな取組）
- ・ 2020年東京大会や事前キャンプ等への協力（☆新たな取組）



【ドイツ・デュッセルドルフ市との交流事業】

【日韓交流事業】

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会
TOKYO 2020 OLYMPIC & PARALYMPIC GAMES
千葉県で開催される競技
Athletic events to be held in Chiba

オリンピック競技 Olympic events	パラリンピック競技 Paralympic events
幕張メッセ Makuhari-messe 	幕張メッセ Makuhari-messe 
レスリング Wrestling 	ゴールボール Goalball 
フェンシング Fencing 	テコンドー Taekwondo 
テコンドー Taekwondo 	新しいフェンシング Wheelchair Fencing 
釣ヶ崎海岸 Tsunagasaki beach 	シーリング Surfing 
シッティングバレーボール Seating Volleyball 	シッティングバレーボール Seating Volleyball 

千葉県 Chiba Prefecture
千葉市 Chiba city
成田空港 Narita Airport
東京湾アクアライン Tokyo Bay Aqua-Line
一宮町 Ichinomiya town

施策6 競技スポーツの好循環

(1) 現状と課題

我が国では、世界の頂点を目指すトップスポーツと、住民の楽しみや健康の保持増進等のために行う地域スポーツ・学校の体育活動・障害者スポーツとが、それぞれ別の目的を持った活動として捉えられ、これまではその連携が不十分でした。

このような中、スポーツを普及・定着させ、スポーツを人々にとって身近なものとするためには、トップアスリート等の優秀な技能や経験を地域スポーツに有効に活用し、スポーツ人口の裾野の拡大を図ることが重要であり、地域住民が主体的にこれらの活動に取り組むようにすることが今後の地域スポーツの課題です。

さらに、こうした取組を自立・継続したものとするためには、総合型クラブや学校と行政が連携・協働して取り組まなければなりません。世界の「ひのき舞台」で活躍するトップアスリートは、学校の体育活動、地域におけるスポーツ活動の中で生まれ、長期間にわたるたゆまぬ努力により、その才能を開花させたものです。トップスポーツにより培われるアスリートの技能や経験、人間的な魅力は社会的な財産であり、それらを地域におけるスポーツに還元することは、スポーツの活性化と裾野の拡大につながるとともに、新たな次世代アスリートの発掘・育成によるトップスポーツの伸長にも寄与するものと考えられます。

アスリートの中には、社会人基礎力が高いといわれる反面、学齢期において勉学面や人間形成面等、将来の長い人生において必要な資質について、適切な時期に適切な指導・経験が与えられていない者も一部いるとの指摘があります。したがって、ジュニアアスリートの指導に関わるスポーツ指導者、スポーツ団体、保護者及び学校は、目先の大会等の結果のみにとらわれることなく、スポーツキャリア全体を含めた長期的な視点に立ってアスリートを育てていくことが必要です。学業とのバランスも含め、キャリアデザインの重要性を認識することが大切です。

また、アスリート自身も、現役引退後のキャリアパス^{*23}に漠然とした不安を感じているものの、引退後のセカンドキャリアに向け現役時代から計画的に準備する者は少なく、競技団体によるサポートもあまり行われていません。様々な角度からのアスリートの教育プログラムが必要です。

一方、トップアスリート等としての経験を有する優れたスポーツ指導者を総合型クラブ等において活用することは、住民のスポーツ参加機運を高めるに当たり非常に有意義であると考えられますが、トップアスリートを含め、専門性を有するスポーツ指導者の活用は全体的には十分とは言えない状況です。

トップアスリートや、スポーツ指導者、スポーツ団体に対して、現役引退後のキャリアに必要な教育を受け、将来に備えるという「デュアルキャリア」^{*24}についての意識啓発と人間的成長を含めトップアスリートのセカンドキャリア^{*25}の問題は、スポーツのインテグリティ^{*26}（高潔性・健全性）を含め教育プログラムによるところが大きいと考えます。

(2) 目標・方向性（関連性）

トップアスリート等の能力活用を推進する

ジュニアアスリートへの教育プログラムを実施する

ア トップアスリート等の活用（リンク E）

イ 教育プログラムの推進（リンク E）

(3) 具体的な取組

ア トップアスリート等の活用

- ・ トップアスリート等活用事業

県内トップアスリートのスポーツ資源を還元する取組に力を入れます。

オリンピック・パラリンピック選手、国体選手や指導者を学校や地域クラブ等に派遣し、スポーツ教室、強化練習等を行います。

- ・ アスリートキャリア開発の推進（☆新たな取組）

国体選手等の本県への就職を応援し、スポーツキャリアを活かしたセカンドキャリアへの移行を進めます。また幅広いキャリア教育を展開します。

イ 教育プログラムの推進（インテグリティの保護）

- ・ ジュニアアスリートロールモデル構築事業（☆新たな取組）

ジュニアアスリートがスポーツマンシップの持つ価値を正しく理解し、将来社会を牽引して行く人間になるための教育プログラムを展開します。



【県高体連主催 優秀選手座談会】

※23【キャリアパス】：人事労務用語辞典の解説によれば、ある職位や職務に就任するために必要な一連の業務経験とその順序、配置異動のルートのこと。

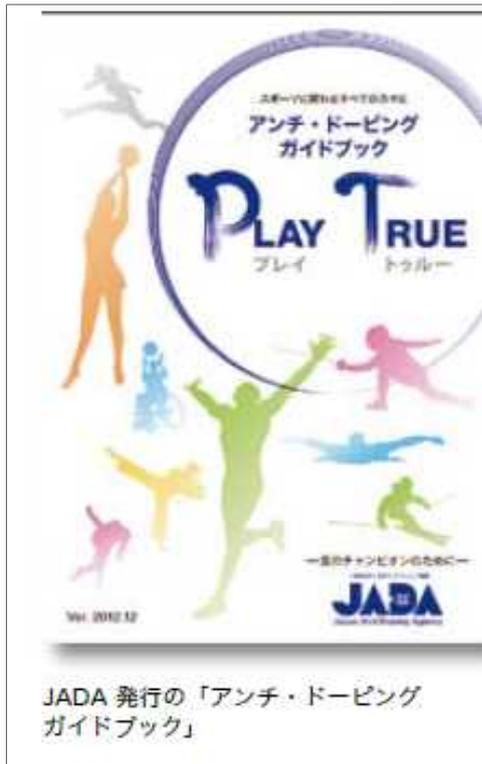
※24【デュアルキャリア】：日本スポーツ振興センター（JSC）の定義によれば、生涯の一定期間において、「人としてのキャリア形成」と「アスリートとしてのキャリア形成」の両方を同時に取り組んでいる状態。

※25【セカンドキャリア】：アスリート引退後のキャリア。

※26【インテグリティ】：JSCの定義によれば、スポーツにおける「インテグリティ」とは、スポーツが様々な脅威により欠けることなく、価値ある高潔な状態を指す。脅威の例として、ドーピング、八百長、違法賭博、違法薬物、暴力、各種ハラスメント、差別、団体のガバナンスの欠如等がある。

・ アンチ・ドーピングに関する教育・啓発活動

スポーツファーマシストを活用し、アンチ・ドーピングについての理解を深め、ドーピング防止の教育・啓発活動を推進するとともに、スポーツの精神・価値が高まるように選手・指導者を対象としたアンチ・ドーピング研修・講習会を実施します。



スポーツの精神・価値

○自分を信じて最善の努力をし、懸命に勝利を目指そうすること

—E x c e l l e n c e

○仲間を信じること

—F r i e n d s h i p

○対戦相手や仲間を尊敬すること

—R e s p e c t

【公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構 (JADA)】



【高校生を対象とした JADA 教材

「アンチ・ドーピングを通して考える—スポーツのフェアとは何か—」】

リンク E 東京オリンピック・パラリンピックを契機としたスポーツの推進(☆新たな取組)

施策1 オリンピック・パラリンピックアスリート強化・支援

(1) 現状と課題

リオデジャネイロオリンピックでは、本県ゆかりの選手が41名出場し、金メダル3名を含め18名が入賞しました。また、パラリンピックには、18名が出場し、銀メダル2名、銅メダル8名を含め、13名が入賞するというすばらしい活躍をしました。オリンピック・パラリンピックの舞台上、本県選手が活躍することは、県民に感動と勇気を与えてくれます。2020年東京大会に向け、千葉県ゆかりの選手を一人でも多く輩出することを目指し、アスリートの発掘・育成・強化への取組を更に充実させることが求められています。

(2) 目標・方向性(関連性)

千葉県ゆかりの選手を一人でも多く輩出する

ア ジュニア世代選抜選手や障害者スポーツ選手の競技力強化の推進

(リンク C・D)

イ 障害者競技組織の体制整備と障害者スポーツ選手の掘り起こしの推進

(リンク B・C)

(3) 具体的な取組

ア ジュニア世代選抜選手や障害者スポーツ選手の競技力強化の推進

- ・ 海外遠征等への強化支援

海外・国内の遠征や強化合宿、競技用具の整備、ジュニアナショナルチームの選考会や全国大会への派遣、運動能力測定や医療費助成、ドクター・トレーナーの派遣等の医・科学サポート等、オリンピック・パラリンピック出場に向けた強化活動を支援し、ジュニア世代選抜選手や障害者スポーツ選手の競技力強化を図ります。

イ 障害者競技組織の体制整備と障害者スポーツ選手の掘り起こしの推進

- ・ 障害者競技組織の支援体制の充実

パラリンピックに一人でも多くの千葉県ゆかりの選手を輩出するため、関係団体と連携し、競技団体の組織化を進め、強化体制の充実を図ります。

- ・ 障害者スポーツ選手の掘り起こし

競技人口が少ない等、裾野の広さが課題である障害者スポーツにおいては、一人でも多く、県内の障害者スポーツ選手を東京パラリンピックに輩出するために、幅広く有望選手を掘り起こす必要があります。運動能力の高い障害者が競技への興味・関心を高め、競技に参加できる環境を作るため、競技体験会を実施します。

- ・ 障害者スポーツにおける競技ボランティア、介助者の養成
パラリンピックでは、指導者やボランティアの役割がより重要になることから、さわやかちば県民プラザで実施しているボランティア体験講座等のノウハウを活用しながら、ボランティアの養成を目指します。
- ・ オリンピック選手とパラリンピック選手の一体となった強化
競技種目の特性や障害の状態等も踏まえながら、可能な限りオリンピック・パラリンピックに挑戦する選手が同じ環境で練習することにより、オリンピック選手とパラリンピック選手が一体となった強化を図るよう、競技団体と連携します。



【テコンドー体験イベント】



【車いすフェンシング体験イベント】

【2020年東京大会ビジョン】

スポーツには 世界と未来を変える力がある。

1964年の東京大会は日本を大きく変えた。2020年の東京大会は、
「すべての人が自己ベストを目指し(全員が自己ベスト)」、
「一人ひとりが互いを認め合い(多様性と調和)」、
「そして、未来につなげよう(未来への継承)」
を3つの基本コンセプトとし、史上最もイノベーティブで、
世界にポジティブな改革をもたらす大会とする。

【(公財) 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会HPより引用】

施策2 スポーツを通じたネットワークの充実・拡大

(1) 現状と課題

県内でのオリンピック・パラリンピック8競技の開催や、各国チームの事前キャンプ受入れは、本県の国際的な魅力や知名度を高めるとともに、国際交流の推進、将来を担う人づくりなどに向けた絶好のチャンスとなるものです。

2020年に世界中の国・地域から訪れる選手・関係者や観客に「千葉で良かった。またここでスポーツを楽しみたい」と評価していただけるよう、県民が一体となっておもてなしの心でお迎えする環境づくりが大切です。

また、県民にとっても「オリンピック・パラリンピックに参加することができて良かった」と感じられるよう、そして学校におけるオリンピック・パラリンピック教育の取組を支援する体制を整備することにより、大会の成功に向けて機運を盛り上げていくとともに、それを一過性のものに終わらせることなく、次代を担う子どもたちにレガシーとして教育的効果を全県的に波及させることが求められています。

(2) 目標・方向性（関連性）

スポーツを通じた地域の活力づくりを推進する

ア オリンピック・パラリンピック教育の推進（リンク A・C・F）

イ 積極的なスポーツ交流への参画（リンク C・F）

(3) 具体的な取組

ア オリンピック・パラリンピック教育の推進

- ・ 学校における未来に向けた「人づくり」のための取組の推進

本県においてオリンピック・パラリンピックを活用した教育で児童生徒の目指す姿等を設定し、それを達成するための様々な方策を推進します。

具体的には、体育や社会の時間を通して、オリンピック・パラリンピックの理解を深める学習等を行い、生涯にわたってスポーツに親しみ、スポーツの楽しさや感動を分かち合う気持ちを育てる取組等を実施します。

- ・ 子どもたちとアスリートの交流

子どもたちがスポーツへの関心を高めるとともに、挑戦することの素晴らしさ、目標に向かって努力することの尊さを感じることができるよう、様々なスポーツ大会や事前キャンプ、イベントなどを通じ、一流選手の活躍を間近に見たり、応援したりする機会を提供します。

- ・ JOC・JPC等との連携によるオリンピック・パラリンピック教育の推進やあすチャレ! School等への協力

(公財)日本オリンピック委員会や日本パラリンピック委員会、(独)日本スポーツ振興センター、(公財)日本障がい者スポーツ協会、(公財)日本財団パラリンピックサポートセンター等と連携して、子どもたちが、オリンピック・パラリンピアンからオリンピック・パラリンピックの意義について学び、競技を体験する教室の実施を協力します。

- ・ 国際理解・国際交流の推進

子どもたちが、オリンピック・パラリンピックの歴史や意義、参加国・地域について学ぶことにより、世界の国々に関心を持つとともに、自分たちの住む地域の魅力を世界の人に伝え、国際交流の意欲を高める機会となるよう、事前キャンプや国際大会などにおける選手との交流事業を推進します。

- ・ スポーツを通じた障害への理解・障害者との交流の推進

子どもたちが、障害についての理解を深めるとともに、お互いの個性を尊重し支え合うことの大切さを学ぶことができるよう、障害のある人もない人も共に参加できるユニバーサルスポーツの体験授業を行う等、スポーツを通じた学校と特別支援学校との交流・共同学習を推進します。



【JOC との連携によるオリンピック教育の推進】



【パラスポーツフォーラム in CHIBA】

イ 積極的なスポーツ交流への参画

- ・ スポーツ情報の収集と提供の充実

障害の有無や年齢に関わらず、県民の誰もがスポーツに参加しやすくなるよう、市町村やスポーツ関係団体と連携したスポーツ情報システムを構築し、的確でわかりやすい情報の提供を目指します。

- ・ 総合型クラブを通じた交流の推進

総合型クラブにおいて、パラリンピック競技やユニバーサルスポーツの体験会、指導者向けの講座等を開催し、障害の有無に関わらず参加できるスポーツの普及を促進することにより、スポーツを通じて障害のある人とない人が交流する場を広げます。

- ・ スポーツボランティアの育成

オリンピック・パラリンピックをはじめとする様々なスポーツ大会や合宿、イベントを成功させるためには、スポーツ、語学等様々な知識を持つボランティアの活躍が重要です。このため、大学、NPO法人等と連携して、スポーツを支えるボランティアを育成します。

- ・ スポーツツーリズムの推進

本県の自然・地勢、スポーツ施設、観光施設を生かし、国内外の競技大会やスポーツ合宿等の誘致に取り組み、スポーツを通じた交流人口の増加、地域の活性化につなげます。

施策3 誰もが参加できるみんなのスポーツの推進

(1) 現状と課題

2020年東京大会の開催は、様々な競技層、年齢層がスポーツを通じた健康づくりや生きがいづくりを再認識する契機となります。多くの競技・種目に注目が集まるこの機を捉えて、トップアスリートなどの優秀な技術や経験を地域スポーツに有効に活用し、スポーツの裾野の拡大及び底上げを図り、スポーツを普及・定着させ、スポーツを人々にとって身近なものにしていく必要があります。

また、パラリンピック開催を契機として、スポーツを通じた障害者との交流や障害への理解を促進し、誰もが互いを尊重し支え合う共生社会の実現に繋がることが期待されます。

(2) 目標・方向性（関連性）

共生社会に向けたアプローチを推進する

ア アスリートの活躍する場（リンクA・D）

イ 共生社会実現への取組（リンクB・C）

(3) 具体的な取組

ア アスリートの活躍する場

- ・ アスリートのキャリアやネットワークを活用した地域スポーツの推進
オリンピック・パラリンピックアスリート強化・支援事業で育成したアスリートや、県にゆかりのあるオリンピック・パラリンピアンとの協力を得ながら、地域のジュニアアスリート等を指導するとともに、学校体育活動に対する支援・協力を行います。
- ・ アスリートのキャリア支援
(公財)日本オリンピック委員会が実施しているアスリート就職活動支援事業「アスナビ」に協力するなど、アスリートが競技に取り組みながら、地域社会・企業の一員としても活躍できるよう支援します。

イ 共生社会実現への取組

- ・ スポーツを通じた障害のある子どもとない子どもとの交流・共同学習の推進
学校教育におけるスポーツを通じた障害のある子どもとない子どもとの交流・共同学習を推進します。
- ・ 総合型クラブの活用促進
障害者スポーツの場として、総合型クラブの活用を促進します。

【県立千葉特別支援学校「交流及び共同学習」のひとつ】

地域でともに学ぶ！ 千葉県立千葉特別支援学校

居住地校交流

きんじゆうこうこうりゅう

居住地校交流とは？ 特別支援学校に通っている子どもが、自分の住んでいる地域の小・中学校に行き、一緒に学習や行事に参加することです。

互いの学校の児童生徒にとって、「取り組んでよかった」と思える交流を目指します！

特別支援学校の子ども一人一人のできることや希望に応じて、居住地校と十分相談の上、活動内容、時間、回数等を決めていきます。

子ども同士のつながりを深め、地域でともに生きる基盤をつくります。さらには、地域での行事、余暇活動など、地域でのつながりを目指します。

○学校名：千葉県立千葉特別支援学校
○住所：〒262-0004 千葉県市川区大日14-10-2
○TEL: 043-257-3909 FAX: 043-257-2226

・ 人材（コーディネーター）の養成

障害のある人とない人が共に楽しめる場を作る人材（コーディネーター）の養成を進めます。

取組の実施に当たっては、障害者施策の主管課や障害者スポーツ団体と、教育委員会、学校、体育協会、社会福祉関係団体、医療関係団体等との連携・協働体制を構築し、それぞれが有する人材やノウハウを有効に活用します。



【車いすレクダンス】



【スポーツ吹き矢】

○「オリンピック教室」は、オリンピック・ムーブメントの普及・啓発活動としてJOCが取り組み始めた事業の一つです。

文部科学省が定める学習指導要領の改訂により、平成24年度から中学校3年生の保健体育における体育理論の中で、「オリンピックや他の国際スポーツ大会等が国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること」という文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義について学習することになりました。

これを受けてJOCは「オリンピズム（オリンピック精神）」や「オリンピックの価値（バリュー）」をより身近に感じてもらうため、その体現者であるオリンピック（オリンピック出場選手）を先生として、体育理論の学習に向けた事前啓発を目的に中学校2年生を対象に授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しています。【JOC HPより引用】

○「あすチャレ！School」は、日本財団パラリンピックサポートセンターが主催する子どもにとって貴重な、学びの機会を提供する体験型授業です。パラアスリートと共にスポーツを体験し、リアルな声を聴くことできっとこれまで見ていた景色が変わり、新たな一步を踏み出すきっかけが生まれることでしょう。人間の多様性を認め合い、人間の強さやすごさを身をもって体験することで、子どもたちの心が動き、新たな学びにつながります。誰もが夢と希望を持って、いきいきと過ごせる社会を創る。

これが私たちの掲げる「明日へのチャレンジ」、「あすチャレ！」です。

「想い」を必ず「行動」に。【(公財)日本財団パラリンピックサポートセンターHPより引用】

リンク F スポーツによる地域づくりの推進

施策1 トップ・プロスポーツと連携した地域づくりの推進

(1) 現状と課題

本県では、千葉ロッテマリーンズ（プロ野球パシフィックリーグ）、柏レイソル、ジェフユナイテッド市原・千葉（プロサッカーJリーグ）、千葉ジェッツ（プロバスケットボールBリーグ）、バラドラール浦安フットボールサラ（日本フットサルリーグ）等の日本のトップレベルのチームが、各リーグに所属して活動しています。また、県内の企業に所属し、各種大会で活躍している社会人の競技者やチームは、本県の競技力向上において、大きな戦力となっております。

各チームのホームゲームの開催により、我が国トップレベルの競技観戦が身近なものとなり、「みるスポーツ」というスポーツ文化をはじめ、地元チームの活躍が地域を元気にし、地域がチームを支えるという相互関係が定着しつつあります。

また、トップ・プロスポーツチームによる、学校、地域、スポーツ少年団、総合型クラブ等との交流や地域貢献活動は、子どもたちに夢を与えるとともに、地域密着を目指す各チームにとっても意義ある取組です。

プロスポーツと連携した各種事業では、プロ選手やトップアスリートとの交流を通じて、スポーツの価値や魅力に触れることができ、青少年の健全育成や「みるスポーツ、ささえるスポーツ」への関心を高めることに大いに役立っています。

しかし、これらの取組は県内一部地域で行われているものの、全域へ広まっているとは言えません。また、事業の趣旨や内容についても、まだ、十分に理解されているとは言えない状況です。

(2) 目標・方向性（関連性）

スポーツの価値や魅力に触れる取組を推進する

ア トップ・プロスポーツ連携事業（リンク A・B）

イ トップ・プロスポーツ団体との情報交換（リンク A・B・E）

(3) 具体的な取組

ア トップ・プロスポーツ連携事業



【ちば夢チャレンジ☆パスポート・プロジェクト 新聞記者体験（左）・キャッチボール体験（右）】

- ちば夢チャレンジ☆パスポート・プロジェクト
子どもたちがスポーツへの夢やあこがれを抱けるようにするために、プロ選手の卓越したパフォーマンスに触れられる公式戦へ招待するとともに、練習見学、ダンス発表、スタッフ体験等のキャリア体験の場を提供します。

【ちば夢チャレンジ☆パスポート・プロジェクト連携チーム(平成28年度末)】

千葉ロッテマリーンズ (プロ野球チーム)
千葉ジェッツ (プロバスケットボールチーム)

- 「ちば夢チャレンジかなえ隊」派遣事業
広く子どもたちにスポーツの楽しさや喜びを体験させるために、県内トップ・プロスポーツ団体に所属する選手やOB、コーチ等を講師として小中学校へ派遣し、体育・スポーツ活動での交流を行います。



【ちば夢チャレンジかなえ隊 陸上競技 (左)・ラグビー (右)】

NO	派遣団体名	種目
1	千葉ロッテマリーンズ	野球
2	ジェフユナイテッド市原・千葉レディース	サッカー
3	富士通陸上競技部	陸上競技
4	千葉ジェッツ	バスケットボール
5	バルドラル浦安フットボールサラ	フットサル
6	千葉ゼルバ	バレーボール
7	オービックシーガルズ	アメリカンフットボール
8	NECグリーンロケッツ	ラグビーフットボール

【H28 ちば夢チャレンジかなえ隊派遣団体】

イ トップ・プロスポーツ団体との情報交換 (☆新たな取組)

プロスポーツとアマチュアスポーツが地域貢献を行う組織を立ち上げているので、県としても連携を図り、学校や地域をつなぐシステムの構築を目指します。

また、トップ・プロスポーツチーム同士が連携を密にして学校や地域と計画的・継続的に交流できるように、県が中心となって、様々な情報を共有・交換できるような協議会の開催を目指します。

施策2 スポーツイベントを活用した千葉の魅力発信

(1) 現状と課題

豊かな自然や地域の特性を活かしたスポーツ活動の充実を図ることは、県民の多様化するスポーツニーズへの対応や参加者と住民の交流の場の創出、スポーツを通しての地域の活性化など大きな意義があります。2020年東京大会の一部競技の県内開催を契機として、スポーツツーリズムを推進し、国内外の人々との交流を促進することにより、地域経済の活性化が期待されます。

千葉県は、四方が海と川に囲まれ平野が多いものの、県土の2割が森林で占められ、山あり海あり川ありと多様で豊かな自然は、本県の貴重なスポーツ資源であるとともに、マリンスポーツをはじめとする国内でも有数のアウトドアスポーツのフィールドでもあります。

また、全国一平均標高が低く、1年中温暖で、首都圏にありながら豊富な観光資源に恵まれているという地域特性から、全国のサイクリング愛好家を迎えるツール・ド・ちばが開催される等、サイクリングを楽しむ絶好の環境にあります。

さらに、ちばアクアラインマラソンは、「スポーツの推進」と「千葉の魅力発信」を2本の柱に、平成24年から隔年で開催され、多くの人たちに千葉県と東京湾のアクアラインの魅力を知ってもらうことで、地域間交流の拡大による地域の活力づくりに貢献しています。

今後は、市町村や関係団体と連携し、施設の整備をはじめ、千葉のポテンシャルを活かしたスポーツツーリズムの質の向上を図ることが必要です。併せて、千葉の魅力を発信する広報活動の充実と、イベントを「ささえる」スポーツボランティア活動の推進も目指します。

(2) 目標・方向性（関連性）

千葉のポテンシャルを活かせるスポーツイベントを開催する

ア 交流機会の創出（リンク B・E）

イ 積極的な関わりの促進（リンク C・E）

(3) 具体的な取組

ア 交流機会の創出

- ・ ちばアクアラインマラソンの開催

過去の大会を検証し、「ちばアクアラインマラソン」開催の継続に向けて取り組みます。県内のみならず、県外、国外からも参加できる大会として、千葉県の魅力を全国や国外へ発信します。また、千葉県の魅力を紹介するイベントや活動等を実行委員会、県庁各部局、市町村、団体等で連携・協力して実施します。それらにより、大会の来場者に満足感を与えると同時に、千葉県を再度訪れ、観光や県内各地で行われるイベントに参加してもらう機会とします。

- ・ スポーツツーリズム事業の推進
本県で盛んなマリンスポーツをはじめとするアウトドアスポーツ等のスポーツ資源を活用して、国際的なスポーツ大会・イベントの誘致やスポーツを楽しむことを目的とする観光客の誘致等、スポーツツーリズムを推進します。
- ・ 2020年東京大会を活用した国際交流イベントの開催（☆新たな取組）
県・市町村、国際交流団体、大学等が、県内各地でオリンピック・パラリンピックに関連した市民参加型の国際交流イベントを開催します。

イ 積極的な関わりの促進

- ・ スポーツボランティア活動の推進
県主催の各種大会を通して、開催市町村や関係団体と一体となり、企画・運営等をするシステム活用し、2020年東京大会開催に向けて、より一層スポーツを支えることの大切さと喜びを伝えるスポーツボランティア活動を推進します。



【ちばアクアラインマラソンスポーツボランティア（左）・車いすランナースタート前（右）】

○CYCLE AID JAPAN ツール・ド・ちば

平成18年度から開催しており、房総半島の美しい海岸線から丘陵へとバラエティーに富んだコースを自らの体力と気力で走ることを目的とし、スピード競技ではなく、交通法規と大会規則を守り、完走した人を賞する大会です。



施策3 身近なスポーツ資源と連携した地域づくりの推進

(1) 現状と課題

県内各地で開催されるスポーツイベントは、愛好者の日常的なスポーツ・レクリエーション活動の成果を発表する場、日頃スポーツに親しむことのない人がスポーツをはじめのきっかけとなる場、イベント参加者相互や地域住民との交流の場などの機能を有しています。

千葉県民体育大会に合わせて開催されているサブイベントは、今まで接したことのない競技種目の体験やトップアスリートとの交流等、県民がスポーツに関わる機会として行われています。また、競技団体が県民に対して広く競技をアピールする場として、各市町村における地域振興の一助としても活用されています。

このように、県内のスポーツイベントの充実を図ることは、「するスポーツ」だけでなく、「みるスポーツ」「ささえるスポーツ」といった形でスポーツに参加する機会にもなり、スポーツに親しむ県民の増加や、健康づくりに関する意識を向上する機会ともなります。また、県内外から多くの集客を図ることもでき、地域の活性化に寄与することが期待されます。

しかし、県民体育大会サブイベントは全競技団体においての実施が困難であること、各種スポーツイベントの開催が広く県民への周知が不十分であること、スポーツイベントを契機にスポーツをはじめの人たちの活動場所が十分には確保されていないことが課題となっています。

(2) 目標・方向性（関連性）

身近なスポーツ資源の開拓・発掘及び有効活用

ア 現有施設や国体開催地の活用（リンク B・C・D）

イ 地域の人でつなぐスポーツの推進（リンク A・B・E）

(3) 具体的な取組

ア 現有施設や国体開催地の活用

- ・ 県民体育大会の開催とサブイベントの実施

本大会は昭和23年から60年を超える歴史を有し、県内各郡市体育協会の代表が力と技を競う本県最大の競技スポーツの祭典として、多くの県民に親しまれています。平成22年に開催された「ゆめ半島千葉国体」を契機に、「広く県民の間に普及したスポーツを、県民体育大会においてイベントを行うことによって、県民の健康増進と体力向上を図りながら県内各地に振興し、地域文化の発展に寄与するとともに、県民生活を明るく豊かなものにする。」という目的の下、各競技を更に県民の方々に知っていただく機会として本大会開催時に本事業を実施します。

- ・ 県立学校体育施設開放事業

「開放校が開放しやすく」「利用者相互が利用しやすい」環境を整備することでより開放を推進します。

イ 地域の人でつなぐスポーツの推進

- ・ 総合型クラブとの連携

多種目・多世代・多志向の3つの多様性を持つ総合型クラブの設立により、スポーツ参加機会が増え、会員同士、世代を超えた交流も生まれています。

今後は、地域住民全体を対象としたイベントの開催やクラブ指導者の派遣による学校の授業や部活動の支援等、クラブによる自主的な事業の展開が期待されています。地域住民が主体的に地域のスポーツ環境を形成する「新しい公共」が実現できるよう、総合型クラブへの支援内容や範囲を一層拡大します。

- ・ 大学・民間企業と地域との連携事業（☆新たな取組）

自治体と学校や関係団体との連携を強化し、大学や民間企業が持っている経営資源の活用や、大学・民間企業を拠点としたスポーツイベントの開催などにより、地域の活性化を進めます。

第2期スポーツ基本計画では、「総合型地域スポーツクラブの質的充実」について、下記のような施策目標を立てています。

[施策目標]

住民が種目を超えてスポーツを「する」「ささえる」仕組みとして、総合型クラブが持続的に地域スポーツの担い手として役割を果たしていくため、クラブ数の量的拡大から質的な充実により重点を移して施策を推進する。

このため総合型クラブの登録・認証等の制度を新たに構築するとともに、総合型クラブの自立的な運営を促進する環境を整備する。さらに、地域に根ざしたクラブとして定着していくため、総合型クラブによる地域の課題解決に向けた取組を推進する。